

## 水痘(水ぼうそう)の予防接種

平成26年10月1日から、水痘予防接種を予防接種法に基づく定期予防接種として実施しています。3歳から5歳のお子さんの接種期間は、平成27年3月31日まで。接種されていないお子さんは期間内に接種してください。

- 接種費用／無料
- 接種医療機関／広報かさい平成26年9月号または市ホームページで確認してください。
- 必要な物／母子健康手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）、予診票（医療機関または健康課にあります）

対象者	接種期間・回数
1歳から3歳に至るまで (3歳の誕生日前日まで)	3カ月以上の期間を空けて 2回
3歳から5歳に至るまで (5歳の誕生日前日まで) 【経過措置】	平成26年10月1日から27年3月31日の間に1回※接種したことがない方が対象

※水痘にかかった方は、接種の必要はありません。また、水痘ワクチンの接種を受けたことがある方は、すでに接種した回数が接種回数になります。

## お済みですか？ 風しんの予防接種

風しんの予防接種の助成期間は、3月31日までです。風しんは春から夏にかけて増える感染症です。免疫のない妊娠初期の妊婦が感染すると、赤ちゃんが先天性風しん症候群（心疾患、難聴、白内障等）を発症する可能性があります。免疫がない可能性がある方や妊娠を希望する方、妊婦同居家族の方は予防接種を受けましょう。

- 助成額  
麻しん風しん混合ワクチン（MR）／5,000円  
風しんワクチン／3,000円

- 対象者／接種日に加西市に住民登録があり①②のいずれかを満たす方  
①昭和39年4月2日～平成2年4月1日生まれの方  
②昭和39年4月1日以前生まれの妊婦同居家族  
※任意接種のため希望者のみ
- 助成回数／1回
- 助成対象期間／3月31日（火）まで
- 実施医療機関／市ホームページで確認してください。  
※助成方法などの詳細は健康課へお問い合わせください。

## 町ぐるみ健診を受けて生活習慣病を防ぎましょう

平成26年度町ぐるみ健診は、6月から12月の間で14日実施し、がん検診と特定基本健診を合わせて3,495人が受診されました。

- がん検診  
検診後に要精密検査を受け、「がん」や「がん疑い」と診断された方は、平成26年12月末現在で13人でした。がんは、早期では無症状の場合が多いので、しばらく受けていない方も年1回は検診を受けましょう。早期発見・早期治療により、治る可能性が高くなります。

- 特定基本健診  
受診者の約4人に1人が、腹囲が基準値より大きく、脂質異常や高血糖、血圧高値などの項目が重なっているメタボリックシンドロームの該当者、または予備軍と判定されています。特に腹囲は、基準値（男85cm、女90cm）以上の男性が48.4%、女性が14.4%と、男性の約半数が基準値を超えています。腹囲が基準値を超えると、内臓型肥満となる場合が多く、生活習慣病を引き起こすリスクが高まります。

検査結果を見直し、体への負担がかかっていないか、肥満の原因となる食べすぎや運動不足などの生活習慣の乱れがないか見直してみましょう。毎年健診を受けて検査結果の変化も確認しましょう。

- 町ぐるみ健診申込書を配布／平成27年度町ぐるみ健診は、広報かさい3月号と一緒に配布している申込書で、申し込みしてください。
- スマイル健康相談／健康課では月2回程度（水曜午後、予約制）、健診結果の見方や健康づくりの相談ができるスマイル健康相談を行っていますので、ご利用ください。

### ■検診別の受診者と要精密検査人数

検診項目	受診者数	要精密検査人数
胃がん	1,252人	137人（10.9%）
前立腺がん	761人	56人（7.4%）
大腸がん	2,265人	102人（4.5%）
胸部	2,432人	67人（2.8%）
子宮頸がん	762人	8人（1.0%）

### ■特定基本健診で要医療と判定された人数（受診者2,813人）

検査項目	要医療人数
脂質	716人（25.5%）
メタボ	該当者 413人（14.7%）
	予備軍 286人（10.2%）
血圧	441人（15.7%）
肝臓	120人（4.3%）
貧血	110人（4.2%）
糖尿病	77人（2.7%）
腎臓	67人（2.4%）

## 加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

### 「地域包括ケア病棟」の導入

#### ■地域医療再編の動き

地域医療再編について、国の方針は急性期病床の削減（回復期・慢性期病床への転化）と在宅医療です。特に前者を足早に進めています。最近の動きは、二次医療圏（加西市の場合は北播磨圏）で、高度急性期病床、急性期病床、回復期病床、慢性期病床に該当する患者がどれくらい地域の病院に入院しているかのデータを収集分析し、解析結果を県に返す流れが進んでいます。その結果を基に、二次医療圏の病院の役割を調整する県主導の「地域医療構想調整会議」のスタートが目前の状況です。

#### ■「地域包括ケア病棟」の設置

病院機能再編のターゲットは看護体制の厚い7対1病床（入院患者7人に対し看護師1人）の削減です。国は平成26年度の診療報酬改訂で全国の7対1病床を半減させる計画でしたが、削減に失敗しました。そのため平成28年度はもっと厳しい施設基準に引き上げが行われます。加西病院も現在は全病床が7対1ですが、対応を行わなければ10対1基準に格下げとなり、医療体制は薄く経営も悪化します。

この対策として検討しているのが、一つの病棟を「地域包括ケア病棟」とすることです。「地域包括ケア病棟」は、急性期治療が終わった患者さんの在宅への退院を支援する機能と位置付けられています。患者さんにとっては、退院までに回復期医療の期間が置かれ、在宅復帰が

しやすくなります。またこの病棟が変わると、7対1基準の対象から除かれるので、病院全体として7対1基準を達成しやすくなります。

#### ■急性期機能の病院医療を維持

当院では、一旦入院すると退院するまで同じ病棟で治療を受けることが通常でした。今後、「地域包括ケア病棟」を運営すると、途中で別の病棟に変わることが起こるようになります。急性期治療の必要な方は急性期病棟において、病状が落ち着けば退院までの期間は「地域包括ケア病棟」に変わることになります。もちろん病棟が変わっても主治医は変わりません。

「地域包括ケア病棟」の運用によって、市民にとって大切な厚い医療体制の急性期機能を維持することができ、一方で、回復期にも入院医療を提供する余裕ができます。市民の方々には、入院中に「地域包括ケア病棟」への転棟、およびその際に一部の医療提供が変化することをご理解いただき、また、地域医療再編の流れの中で、加西病院が元気な急性期病院としてこの地に残って行くことにご支援をいただきますようお願い申し上げます。



市民ボランティアの方が外来での案内やおしぼり巻きなどの協力をしていただいています。ボランティア登録をお待ちしています。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）

## あなたが生きている それが大変 ひとりで悩まず 相談してください

3月は自殺対策強化月間です。あなたの身近な人や周りの人の様子が“いつもと違う”と感じた時、「どうしたの?」「眠れてる?」まずは声を掛けてください。そしてじっくり話を聞き、必要な支援につないでください。一人一人ができる自殺予防への第一歩です。

#### ■加西市の実態

自殺者は平成20年に増加した後、自殺率が30.0を超えた状態でしたが、25年に北播磨の平均自殺率を下回りました。しかし、まだ多くの方が自殺により亡くなっています。実態は、高齢者や無職の方の割合が高く、原因は一つではありません。うつ病や心理的孤独、健康に関する問題が大きいと考えられます。

かけがえのない「いのち」を守るため、まずは身近な人の変化に気づいてください。

#### ■相談窓口

- 県いのちと心のサポートダイヤル / ☎ 078-382-3566  
月～金 18:00～翌 8:30 土・日・祝 24時間
- 市こころの健康相談窓口 / ☎④ 8723 平日 8:30～17:15

#### ■加西市と北播磨の自殺率

	加西市	北播磨
平成21年	31.7	27.0
22年	37.5	27.4
23年	31.6	22.3
24年	33.7	24.9
25年	21.3	23.1

自殺率／人口  
10万人当たりの自殺者数